

目指す学校像	みんなでつくる わくわくがあふれる野田小学校 ～ すべての子どもが 自ら 自分らしく育つ学校 ～
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的事項の定着と学びの自律化の推進 2 児童の状況を把握できる仕組みづくりと相談体制の充実 3 学校の教育目標具現化に向けた取組の共有と共通行動 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力学習状況調査の結果、国語科の「話すこと・聞くこと」「読むこと」、算数科の「測定」「変化と関係」の領域は、良好であったが、国語科「言語の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」、算数科「数と計算」「図形」「データの活用」に課題が見られた。また、テストの後半の問題になるほど無回答率が高くなる傾向が見られた。 ○「自分で計画を立てて、勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童は、62.9%、「国語の勉強は好きですか」肯定的回答 69.1%、「算数の勉強は好きですか」肯定的回答 54% (課題) ○基礎的・基本的事項の定着状況や主体的に学習に取り組む態度等の個人差が大きくなってきている。	・基礎的・基本的事項の定着 ・学びの自律化の推進	・「詩の暗唱チャレンジ」「計算力向上プロジェクト」「漢字検定」「キーボード検定」「逆上がり検定」等を実施し、学び方を身に付けさせるとともに、「知識・技能」の定着を図る ・学びの自律化推進委員会を立ち上げ、家庭学習の行わせ方、授業改善のポイントなど、自律化を推進する取組を協議し、共有する	①代表的な基礎的・基本的事項の定着状況を数値化する。 ②基礎的・基本的事項の定着率の向上 ①年間10回以上情報提供することができたか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「計画を立てて勉強する」割合が90%以上となったか。	①毎月1回暗唱チャレンジの日を設定し、児童一人平均5編(11月末)の詩を暗唱することができた。 ②漢字、計算については、児童の実態について共有することができた。	C	暗唱チャレンジのように、基礎的・基本的事項の定着に取り組む仕組みと児童の成長を見取る仕組み作りに校内研修を活用して取り組む。 自ら学ぶ授業、自ら取り組む家庭学習を具現化する取組を推進する。	・学びの自律化は難しい課題である。特に低学年の児童は初めて経験することも多い。児童の発達段階に応じた自律化の取り組みを進めてほしい。 ・自己決定をする力、興味をもっている所を伸ばす指導をしてほしい。 ・児童が、自分事として学んでいくことを大切にしてほしい。
2	(現状) ○学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が最も低い学年は、78.9%、平均は88.3%であった。楽しいと回答できない児童が多い学年で6名、どの学年にも2名は在籍している。 ○「学校では悩みやトラブルなどに適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした児童が77.2%、保護者は91.1%であった。 (課題) ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制・仕組み作りが課題である。	・児童の状況を把握する仕組みづくり ・教育相談体制の充実	・情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ・教育相談室を開設し、児童が休み時間等に相談できる野田っ子窓口の運用充実を図る。	①児童一人ひとりの状況を継続的に把握できる仕組みを8月末までに作り、運用する。 ①学校自己評価に係る児童アンケート「学校では悩みやトラブルなどに適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が前年度以上となったか。	①高学年は、毎日書く1行日記、低学年では、情報端末を活用し、今の気持ちを選ぶRiflectを活用し、日々の気持ちの確認を行った。 ①「学校では悩みやトラブルなどに適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした児童が77.2%→79.9%に改善した。「そう思う」と回答した児童は39.3%→56.2%と、大幅に向上している。	B A	担任は、朝の健康観察、提出物等の状況、給食の残債等で、日々、児童の状況把握に努めている。 Reflect等を活用し、データの蓄積と全教職員が状況を把握できる仕組みを整えていく。 「先生方に相談すれば、大丈夫」という空気を創れるよう継続する。SSW、SCと連携した指導の充実を図る。	・児童が、のびのびと自己表現をし、生き生きと学んでいる姿に安心感を覚え、ほっとすることができた。 ・児童が、一生懸命、仲よく、協力している姿がたくさん見られた。 ・地域でも、子ども同士が、やさしく思いやりの心をもち遊ぶ姿がよく見られる。
3	(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、学校の教育目標を「自ら(主体性)、ともに(尊重・協働)挑戦する(創造・貢献)」とし、保護者や地域と共有し取り組むことを確認した。 (課題) ○今年度は、昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・学校の教育目標とその具現化に向けた取組の共有 ・学校の教育目標具現化に向けた共通行動	・学校だより等を活用し発信した教育活動に、地域や保護者の方が意見を言える仕組み「双方向型学校だより」を整備する。 ・学校の教育目標を具現化するための児童の取組を保護者と共有する仕組み「目標宣言」野田小の課題を子どもたちが解決を図る「リーダー宣言」を実施する。 ・学校の教育目標を具現化する方策を学校運営協議会で策定し、学校と地域、保護者等が協働した取組を始める。	①地域や保護者からの教育活動への意見や感想100通以上。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校の教育目標を具現化するための児童の取組を共有できている。」と回答する割合が80%以上となったか。	①②学校だより等にQRコードを添付し、保護者の感想、意見を学校に発信できる仕組み作りをした。学校に寄せられたのは20件程度であった。 ②児童の目標、振り返りシートに保護者が応援メッセージを記入できるようにした結果98%の保護者から、共有できているとの回答を得た。	B	児童の目標、振り返りシートに保護者が応援メッセージを記入できるようにしたこと、学校HPで児童の学習の様子を丁寧に発信し続けたことにより保護者との共有はできてきている。課題やよい取り組みを共有、話せる仕掛けに取り組む。	・子どもたちの「ありがとう」などの何気ない言葉から、自己肯定感をはぐくむ指導がよく行われていることが感じられる。 ・児童と地域や保護者の皆様と顔を合わせ、一緒に活動する取り組みを行いたい。 ・児童が、保護者や地域の方に働きかけ、巻き込んでいくような、お互いに楽しめる取り組みをしてはどうか。
4	(現状) ○学校課題研修等を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと学ぶための手立てについて共有が図られてきた。 ○小規模校であるため、教職員一人ひとりの負担が大きい。 ○自律した子どもをはぐくむ支援方法に課題がある。 (課題) ○子どもたち一人ひとりが自ら生き生きと学ぶ授業づくり ○教職員一人ひとりの業務量の削減と誰もが学び続けることができる職場環境づくり	・教職員の資質能力の向上を図る研修の充実 ・教職員の働き方改革と同僚性の向上	・一人一授業研究会を実施する。 ・教職員一人ひとりが学んだことを発信できる仕組み、学びシェアを推進する。 ・校務のICT化等による業務改善を推進する。 ・子どもや教職員の自律を引き出すコーチング研修会の実施と取組を推進する。	①学校評価に係るアンケートで「国語の勉強は好きですか」肯定的回答80%以上。 ②全教職員が学んだことを1回は発信する。 ③校務のICTを推進することによる業務改善5件以上。 ④コーチング研修会の開催及びコーチング進捗率50パーセント以上。	①②「国語の勉強は好きですか」肯定的回答69.1%→79%に改善した。全教員が、研究授業を実施し、学んだことを発信することができた。 ②ペーパーレス会議の導入、日報と学校日誌のリンクと一元化、ファイルを共有による共同編集、Teamsでの情報共有、宿題の配信と提出などに取り組んだ。 ④夏季休業中に、講師を招き、コーチングを保護者とともに学んだ。教員が大きな声を出して指導する場面がほとんど見られなくなった。	B	一人1授業研究会を通して、教員一人ひとりの指導力向上を図ることができた。業務のICT化以外にも会計事務を事務職員に移管、ブロック学年ごとに副担任配置等の業務改善を推進した。コーチング研修会を保護者とともに受講し、子どもたちへのかかわり方を学んだ。一人1授業研究会のテーマを実施する際の視点として、「学びの自律化」を加え、方策を継続、取組を推進する。	・授業では、ICT機器が有効に活用されている。 ・ペアやグループでの活動が、ごく自然に行われていて、よい。 ・今の子どもたちは、情報量が多く、たくさんのかかわり方を学んだ。一人1授業研究会のテーマを実施する際の視点として、「学びの自律化」を加え、方策を継続、取組を推進する。